

群馬の畜産

みんなの情報室

第314号

発行日
平成24年10月25日発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 6階/TEL:027-220-2371(代) FAX:027-220-2372
ホームページ:http://www.chikusankyokai.or.jp

牛肉の消費回復を願って

食べて応援しよう！キャンペーン 前橋市で開催



イベントで挨拶をする塩原事務局長

目

- ◎食べて応援しようキャンペーンを開催 2
- ◎家畜を通じ畜産業に触れる感動を！宿泊交流体験 2
- ◎獣医師養成確保就学資金貸与事業 3
- ◎酪農ヘルパー技術向上研修会を開催 4
- ◎メールマガジンにご登録ください 4
- ◎家畜育成牧場連絡協議会で飼料分析ならびに土壌分析を実施 .. 5
- ◎東京電力への損害賠償請求の方式が変更になります 5
- ◎繁殖と牛水田放牧のモデル展示実施(続報) 5

次

- ◎赤城南面養豚生産者の集いを開催 6
- ◎第10回全国和牛能力共進会県代表牛4頭が決定 7
- ◎第16回県畜産共進会(山羊の部)を開催 8
- ◎第16回県畜産共進会(種豚の部)を開催 8
- ◎第16回県畜産共進会(繁殖と牛の部、乳牛の部)を開催 9
- ◎価格安定支援の各種事業の実施状況 10
- ◎畜産新技術 11
- ◎行事予定 12

企画管理部より

■牛肉の消費回復を願って 食べて応援しよう！キャンペーンを開催

去る8月26日(日)、前橋市にある大型ショッピングセンター「けやきウォーク前橋」にて、東日本大震災復興支援の一環で牛肉の消費低迷の回復を図ることを目的に、広く牛肉などについて知っていただくイベント「食べて応援しよう！キャンペーン」を開催しました。



開催の様子

夏休み最後の週末ということもあり、オープンと同時にけやきウォーク前橋にはたくさんのお子様連れのお客様がご来店になる日で、キャンペーンには、ショッピング中の450名を超えるお客様にご参加をいただき大盛況でした。

開催に先立ち塩原事務局長は、「地震や津波による大きな被害を受けた東北地方はもとより、本県群馬も、放射性物質の飛散による、農畜産物が風評被害を受けている。」と説明、「県産牛肉は昨年7月より、群馬県によって放射能の全頭検査が行われ、安全な牛肉が販売されている。安心しておいしい牛肉をもっとたくさん食べてほしい。」と挨拶を行いました。



キャンペーンでは、牛肉への理解をより深めていただくため、公益社団法人全国食肉学校の小原教務部長による「お肉博士」とフリーアナウンサー竹下裕理さんとのトークショー「お肉の勉強会」を開催し、食肉についてのクイズなども行い、全問正解をした方には抽選で上州牛をプレゼントしました。



試食会と上州牛フェア

また、今回開催にご協力をいただいたユニー株式会社アピタ前橋店において、「上州牛試食会」と「上州牛フェア(特売)」を開催し、多くの方に上州牛を試食してもらい、来場者の方は、おいしさや牛肉の安全性について実感しているようでした。

■家畜を通じ畜産業に触れる感動を！ 牧場宿泊交流体験



神津牧場について勉強している様子

畜産物の生産現場や畜産の果たしている役割等について、消費者や児童生徒を対象に、牧場等における畜産経営者等との交流、学習等各種の畜産ふれあい体験活動を通じて、畜産に対する理解を深めることを目的とし

で「牧場宿泊体験」を日帰りプラン:8月5日(日)、1泊プラン:8月18日(土)～19日(日)の2プランで開催いたしました。

下仁田町にある神津牧場を舞台に、日帰りプランでは22名の子供たちを含む41名、1泊プランでは、16名の子供たちを含む33名の参加者を迎え、児童から中学2年生まで幅広い年齢層の子供たちが牧場体験を行いました。



加工体験の様子

体験メニューのポイントとしては、畜産への理解深められるよう、①生産に関すること、②加工に関すること、③食肉に関することの3分野で、神津牧場の特色でもある「ジャージー牛」の搾乳や給餌、子牛の世話、バターやアイスクリーム、くん製などの加工品の製造、また、ジャージー牛のカレーや鉄板焼きの食事をとおして、家畜の命をいただくという食育について理解できるメニューとなりました。そのほか、ハイキングや牛乳風呂、夜は星空観察など、神津牧場の地形や地域とのネットワークを生かした様々な体験をしました。

参加した子供たちは、初めて触れるジャージー牛にドキドキしながら、搾乳を体験したり、反芻行動に驚いたり、哺乳時の子牛の突き上げにびっくりしたりと話していました。



給餌体験の様子

【参加者アンケートから】

結果概要(今回参加いただいた計22組のご家族)

○牧場体験をしたことがありますか？

ある:19組 ない:3組

○牧場体験をする主な理由(複数)

動物に触れさせたい:10組

自然に触れさせたい:8組 食育のため:5組

○牧場でしてみたいこと

牛の世話 バター作りソーセージ作り

豚の世話 など

○畜産業の印象(複数)

自然と共生している産業:15組

重要な産業:13組

後継者が不足している産業:11組

食糧生産をする産業:11組 など

○将来子供に畜産業に就くことを勧めるか

勧める:19組 勧めない:2組

○ご意見・ご感想

・観光牧場に違和感を覚えていたが今回は牧場に好感を持つことができた

・動物の苦手な娘が動物に触れることができた

・星を見たりタヌキに遭遇したり大興奮した

・子供にも命の大切さが伝わればいいと思った

など

今回参加した22組のうち、19組は1回以上、他の牧場などに訪問し牧場体験をされている方でした。

今回のアンケートでは、新たに「将来子供が畜産業に就くことを勧めるか」という問いを設けましたが、19組は「勧める」と回答しています。

体験だけでは、畜産業を理解しているとはいえない部分もありますが、これらの親子での牧場体験を通じて、子供の将来の職業選択の一つとして畜産業が認知され得る可能性があることに期待を感じました。

牧場体験によって、畜産業の理解がさらに進み、畜産物の消費者という視点だけではなく、畜産業を職業として選択するきっかけづくりとして、本事業は持続的に展開し、さらに一步進んだ牧場体験を計画実施していきたいと考えています。

■未来の優れた獣医師を確保するために 獣医師養成確保修学資金貸与事業

畜産農家の安定的な経営を支える優れた産業動物獣医師を確保、育成するため、獣医師養成教育課程を専攻し産業動物獣医師を志す者に対して、獣医師養成確保修学資金を貸与する事業を実施しています。

現在、本事業の対象となり、修学資金の貸与を受けた

ものは平成22年から15名おり、うち2名が県内で産業動物獣医師として従事しています。

多くは、県内出身者ですが、一部はIターンとして群馬県での産業動物獣医師への就業を希望している学生もいます。

獣医師養成確保修学資金貸与事業 修学資金貸与計画

年度	NO.	大学名	性別	出身地	貸与期間	県内 従事	H23.4.1	H24.4.1	H25.4.1	H26.4.1	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	H30.4.1	H31.4.1
H22年度	1	北里大学	男	群馬県	5										
	2	日本大学	女	群馬県	1	○									
	3	麻布大学	男	群馬県	6										
	4	北里大学	女	群馬県	3										
	5	酪農学園大学	女	群馬県	3										
H23年度	1	麻布大学	女	東京都	1	○									
	2	酪農学園大学	男	群馬県	6										
	3	麻布大学	女	東京都	5										
	4	日本大学	男	東京都	6										
	5	酪農学園大学	女	埼玉県	6										
H24年度 (予定)	1	北里大学	男	群馬県	6										
	2	日本大学	女	群馬県	6										
	3	北里大学	男	埼玉県	5										
	4	麻布大学	女	群馬県	2										
	5	宮崎大学	男	群馬県	1										

※H22年度は中央畜産会実施分

貸与期間 卒業 義務期間 通常期間

貸与者の貸付期間と卒業予定時期

本事業の対象となる時期は個々により異なりますが、獣医師になるためには、6年の修学と獣医師国家試験の合格が必要で、卒業後、速やかに産業動物獣医師として従事してもらうために、在学中から効果的な就職活動やインターンシップの実施や雇用先の確保が課題となっています。

【事業対象学生の概要】

平成25年3月卒業予定:3名(北里・酪農学園)

平成26年3月卒業予定:1名(麻布)

平成27年3月卒業予定:1名(北里)

平成28年3月卒業予定:2名(麻布(2))

平成29年3月卒業予定:4名(酪農学園(2)・日本・北里)

平成30年3月卒業予定:2名(北里・日本)

来春の卒業予定者3名については、関係団体から問合せが寄せられていますが、ぜひ、産業動物獣医師の採用計画にあたっては、本事業による県内の従事を希望する人材がいますので、お気軽に相談をお願いいたします。

また、採用計画がございましたら、当協会にお知らせください。

【修学資金貸与事業Q&A】

Q:どんな学生がいますか？

A:群馬県内に産業動物獣医師として従事を希望する1年生から6年生です。

Q:学生に会って話はできますか？

A:南は宮崎、北は北海道までと、大学のキャンパスの関係から遠方の学生が多く連絡調整が必要です。

長期休み(主に春季・夏季)の帰省や就業体験等で来県する機会を活用すれば可能です。(奨学生のため特段のご配慮をお願いします)

Q:採用計画がある場合はどうすればいいのですか？

A:当協会に連絡してください。学生へ連絡調整を図り、採用条件や選考方法などの調整を行います。

■酪農ヘルパーの技術向上を図るために酪農ヘルパー技術向上研修会を開催

酪農家が休日を確保する場合や、農家に突発事故が発生した場合等において農家に代わり飼養管理を行う「酪農ヘルパー」の出役又は出役を請け負う酪農ヘルパー事業について、その円滑な推進を図っていくことを目的に、酪農ヘルパー円滑化対策事業を実施しています。

県内には、現在13の酪農ヘルパー利用組合があり、利用組合に参加する農家は約490戸となっています。また、専任ヘルパー(酪農ヘルパー利用組合に常用雇用されるヘルパー要員)は約51名、臨時ヘルパー(専任ヘルパー以外)は22名が在籍しています。

来る11月6日～7日に、県内酪農ヘルパーを対象とした技術向上研修を長野県須坂市にありますオリオン機械株式会社にて開催します。

農家からの信頼と信用を得られる酪農ヘルパー業務が行えるよう、酪農ヘルパーの資質向上を図る目的で、次のような内容の研修を実施します。

<研修内容>

- 1 酪農ヘルパー事業の状況について
- 2 搾乳機器点検のポイントについて
- 3 酪農機械の構造・仕組み・メンテナンス及び緊急時の対応方法について
- 4 その他

参加募集については、各酪農ヘルパー利用組合にて取りまとめを終了しています。

■協会の情報をタイムリーにお伝えしますメールマガジンにご登録ください

8月よりメールマガジンが本格稼働いたしました。

8月中旬に当協会の正会員及び特別会員の皆様にはご案内のパンフレット(左)をお送りしたところです。

広く皆様にご登録いただきたいと考えておりますので、ぜひ、この機会にメールマガジンへのご登録をお願いいたします。

公益社団法人 群馬県畜産協会のご案内

畜産協会の様々な情報をお届けします
畜産協会メールマガジン登録のご案内

補助金等の交付状況や、イベントの情報、求人情報など、会員や農業者、関係機関、一般の方などに幅広く情報を発信しております。
また、会費、賛助会員の皆様から寄せられました情報等もお知らせしていきたいと考えておりますので、是非、メールマガジンにご登録ください。

登録方法

パソコンから

携帯電話から

ドメイン指定受信を設定している方は、あらかじめ「chikusankyokai.or.jp」を受信可能にしてください。

このQRコードを携帯電話でスキャンして読み取ることができます。

p-chikusankyokai@t.bme.jp に空メールをお送りください
(題名、本文は空欄のまま送信してください)

登録フォームへのURLがメールで届きます
(システム上1時間程度、時間がかかる場合があります)

登録フォームに入力し、送信すれば登録完了です
(システムより登録内容が送られてきます)

※回線状況により、到着に時間差を要する場合がありますので、予めご了承ください。
※登録後、しばらくメールマガジンの配信がない場合には、登録できていない可能性がありますので、その際にはお手数ですが、再度ご登録ください。
※配信解除も登録同様、上記メールアドレスに空メールをお送りいただくことで解除されます。

お問い合わせ先
企画管理部 庶務課 TEL: 027-220-2371

また、会員、特別会員の情報も掲載いたしますので、お気軽に情報を企画管理部までお寄せください。

この分析結果は、今年も(独)農業食品産業技術総合研究機構・畜産草地研究所などの協力を得て研修会を開催し、会員相互での研鑽に役立てていきます。



採取の様子



【登録方法】

<PCから>

①「p-chikusankyokai@t.bme.jp」へ空メール(題名・本文は空欄のまま送信)を送る

②登録フォームにアクセスし入力して送信で完了

<携帯電話から>

準備:ドメイン指定受信など、迷惑メール対策を行っている方は予め「chikusankyokai.or.jp」を登録し受信できるようにする

①QRコードから「登録フォーム」へアクセス

②登録フォームにアクセスし入力して送信で完了

【最近のお問合せから】

Q:機関の代表メール等で受信をしたい場合はどうしたらよいか

A:機関名でご登録ください。なお、性別等はどちらでも構いません。ご職業は団体の性質に合うものをお選び下さい。(例:JAの場合→農協職員)

経営支援部より

■牧草、土壌を分析して公共牧場の生産性向上に活用 家畜育成牧場連絡協議会で飼料分析ならびに土壌分析を実施

群馬県家畜育成牧場連絡協議会(会長、清水神津牧場長)では、草飼料の生産性向上を図るために、毎年、希望する会員牧場に対して、草飼料、土壌の採取、分析をおこなっています。今年も希望する会員牧場に対して分析をおこないました。昨年度の飼料分析では、グラステタニー症の発生指標であるK/(Ca+Mg)当量比の高い圃場が約1/4見られ、カリの減肥、石灰、苦土の増肥の必要性が指摘されました。

■東京電力への損害賠償請求の方式が変更になります 平成24年8月1日出荷分より「下落率方式」に変更

東京電力福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所の事故に伴う肉牛の損害賠償方式が、現在の「原価積み増し方式」から、平成24年8月1日以降に出荷された肉牛は「下落率方式」に変更となります。

これは、出荷制限の解除などにより生産者段階での出荷牛の滞留が解消したこと、格付成績を損害賠償に反映すること、請求事務処理の簡素化が図れることなどの理由により、群馬県を含む13県域で改訂となるものです。

実際の請求については10月24日(水)に説明会議を開催した後、JA、市町村を窓口としておこなっていくことになります。

■繁殖和牛水田放牧のモデル展示実施(続報)

前号の本誌、みんなの情報室で現地検討会の様子をお知らせした、本会、経営支援事業で支援している、小倉淳さん(みどり市)の繁殖和牛水田放牧について続報をお伝えします。

小倉さん方では、前回お伝えした2頭の繁殖和牛の放牧終了後にも、これまで放牧していた水田20アール(2箇所)について、引き続き有効活用を図るため、東部農業事務所などの協力をいただき、飼料用あわ、ひえを播種しました。

この圃場に前回と同様、放牧牛2頭を入れ替え、JA 群

馬中央会の補助事業によりソーラー式電気牧柵を設置し、立毛のまま直接、採食させて放牧期間の延長を図りました。それにより、20アールの水田をに、繁殖牛2頭を22日間放牧できました。(牧養力は22カウデー／10アールという結果でした。)

小倉牧場では、放牧面積の拡大を図ることはもちろん、出来るだけ長期日数を放牧できるよう体系を検討しながら、今後も放牧実施をおこなっていく予定です。



9月12日の様子



9月19日の様子



9月26日の様子

■豚オースキー病(AD)の清浄化を目指して 赤城南面養豚生産者の集いを開催

10月5日(金)、桐生市新里総合センターにおいて「赤城南面養豚生産者の集い」を行いました。

この集いは、養豚密集地帯である赤城南面(旧勢多郡富士見村、大胡町、粕川村、宮城村及び新里村)の養豚農家、管理獣医師および関係者等がADの早期清浄化を図るために開催しており、今回で3回目となります。

豚オースキー病(AD)の清浄化に関して県畜産課衛生係から、今後のAD清浄化対策として、

- ①今年度中に肥育豚の野外ウイルスの動きをとめる
- ②平成25年度以降は繁殖豚の対策を中心とする
- ③平成26年度中にはすべての野外抗体陽性繁殖豚のとう汰をする

ことを目標として、清浄化対策を推進していきたいとの説明がありました。

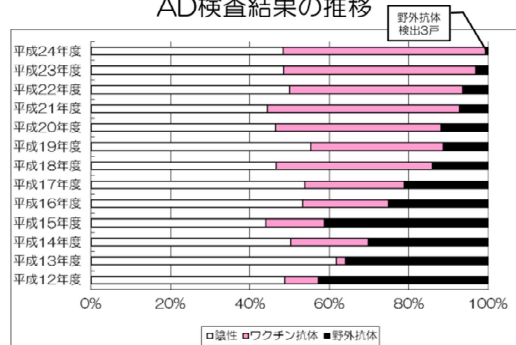
また、中部および東部家畜保健衛生所からは、赤城南面の各地域におけるAD対策の現状と課題について詳細な説明がありました。

参加した生産者からは「清浄化対策の最終段階となり、今後さらに地域一体となった取組みが必要になってくる。近隣地域とも連携をとり、清浄化に向けて全員が足並みを揃えて取り組んでいかなければならない。」との声が聞かれました。



挨拶をする宮川専務理事

県食肉卸売市場出荷豚(肉豚)における AD検査結果の推移



AD検査結果の推移

生産振興部より

**■第10回全国和牛能力共進会
県代表牛4頭が決定！**

平成24年10月25日～29日の5日間にわたり、公益社団法人全国和牛登録協会が主催する「第10回全国和牛能力共進会」が開催されます。

その開催に先立ち、県内においても、種牛の部第2区と第3区各1頭の計2頭と肉牛の部第9区2頭、併せて4頭の代表牛が選抜されました。



第2区 号名:かみおき 1126(出品者:八木原茂さん 前橋市)



第3区 号名:いちあやみの1(出品者:市川初枝さん 太田市)

第2区「かみおき 1126」は、発育が良好で特に後躯が素晴らしい雌牛でした。

また、第3区「いちあやみの1」は体のバランスと繁殖雌牛らしい体型が魅力的な雌牛です。



第9区 号名:糊桃田 15(出品者:鈴木明巳さん 前橋市)



第9区 号名:重儀(出品者:斉藤誠さん 甘楽町)

第9区「糊桃田 15」と「重儀」は、肉質・肉量・肉のうまみで勝負します。

代表牛の4頭とも、それぞれ上位入賞が十分に望める牛です。応援よろしくお願い致します。

**長崎全共出品者等の
ユニフォームができました**


鮮やかなオレンジと紺を基調としたジャンパーにベージュのチノパンのユニフォームです。

帽子とのコーディネートも良く、シャープな印象となっています。

PR頑張ります！

■装い新たに山羊・めん羊共進会 第16回県畜産共進会(山羊の部)を開催！

平成24年9月7日に渋川市の渋川家畜市場において、第16回群馬県畜産共進会(山羊の部)が開催されました。

前回までは、群馬県山羊・めん羊振興会主催で執り行われましたが、今回より群馬県畜産共進会の一部に含まれ、群馬県畜産協会主催となっております。

出品された山羊は♀22頭、♂12頭で各々の出品した山羊について、積極的に意見が交わされている光景も見受けられました。

また、共進会後に開催されたオークションには23頭が出品され、購買者は県内外を問わず参加しており、自分の好みの山羊を競り落とそうと駆け引きをしていました。なお、結果は以下の通りです。(中村)

賞名	受賞者	性別	名号
群馬県知事賞	望月 衛(前橋市)	雄	薫風10-3
(社)畜産技術協会会長賞	角田 主計(沼田市)	雌	なかぐら24-3



知事賞の薫風10-3と望月氏



畜産技術協会会長賞のなかぐら24-3

■種豚の重要性を再認識 第16回県畜産共進会(種豚の部)

平成24年10月2日に渋川市の渋川家畜市場において、第16回群馬県畜産共進会(種豚の部)が開催されました。この共進会は、優良な肉豚を生産するために重要となるランドレース種(L)、大ヨークシャー種(W)、デュロック種(D)各々について、優れた種豚を選んでいくために開催されています。一般的に、スーパーなどの店頭で並ぶ豚肉は、ランドレース種と大ヨークシャー種を交配して生産された一元交雑種(LW)の雌豚に、デュロック種の雄豚を交配して生産されています。

本共進会は、県内生産者および畜産関係者が種豚の重要性を再認識するための場でもあります。また本年は、(一社)日本養豚協会主催の東日本地区種豚登録講習会の審査実習も兼ねて開催されており、受講者の方が熱心に審査委員の審査講評を聞いている光景も印象的でした。なお、結果は以下の通りです。(中村)

賞名	出品者	品種	名号
名誉賞	武田 正木 (東吾妻町)	W	ウィルマ シーラ タケダ [♀] 10 0001
優等賞	武田 正木 (東吾妻町)	L	クニ ヘリンダ [♀] タケダ 3 0001
優等賞	武田 正木 (東吾妻町)	W	ウィルマ シーラ タケダ [♀] 10 0002
優等賞	吉沢 重実 (前橋市)	D	ユメ ネット ヨシサ [♂] 3 0043



名誉賞のウィルマ シーラ タケダ[♀] 10 0010(上)とウィルマ シーラ タケダ[♀] 10 0001(下)

■県内の牛が競い合いました 第16回県畜産共進会(繁殖和牛の部、乳牛の部)

前橋市の群馬県畜産試験場において、平成24年10月5日に第16回群馬県畜産共進会・繁殖和牛の部、6日に乳牛の部が開催されました。繁殖和牛の部では未經産28頭、経産37頭、群出品8組の計65頭8組が出品され、名誉賞は第8部繁殖雌牛群の利根沼田地域が受賞しました。乳牛の部では、未經産61頭、経産33頭の計94頭が出品され、名誉賞は未經産の部では太田市のTeam Cousin、経産の部では伊勢崎市の細井幸夫さんが受賞しました。なお、結果は以下の通りです(各部優等賞1席のみ記載)。

また、乳牛の部では、11月10日～11日に栃木県酪農畜産研究センターで開催される関東ホルスタイン共進会へ出品される乳牛を選抜する予選会も開催され、第2部～第9部までの上位3頭計24頭のうち、未經産で8頭、経産で8頭の計16頭が選抜されました。(中村)

【繁殖和牛の部】

部	受賞者	号名	父牛
第1部	金子 登士男 (みどり市)	かねこ 479	勝忠平
第2部	平井 満則 (みなかみ町)	ゆきやのふ	安平幸
第3部	武井 賢一 (沼田市)	たけい 23 の 3	第1花園
第4部	高島 大明 (嬬恋村)	しらね 61572	安糸福
第5部	吉田 菊子 (富岡市)	えつこの 10	第1花園
第6部	武井 賢一 (沼田市)	たけい 16 の 21	糸福
第7部	黒岩 重行 (嬬恋村)	やすふく いとさかえ	安糸福 茂勝栄
第8部	武井 賢一 (沼田市)	たけい 18 の 9 たけい 16 の 21	第1花園 平茂勝
	山口 友一 (みなかみ町)	ますやま 5 の 7	平茂勝



繁殖雌牛群で名誉賞を受賞した利根沼田地域の受賞牛

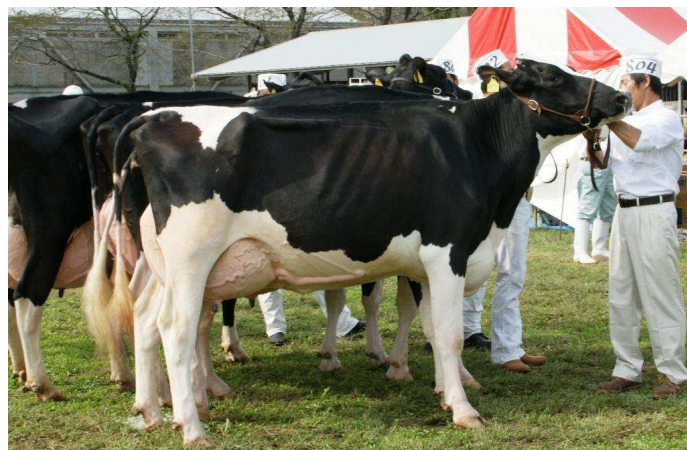
【乳牛の部】

部	受賞者	号名
第1部	(有)KC牧場 (長野原町)	KCB BB アウトウッド スリック
第2部	須藤 晃 (前橋市)	サンブライト ファイナル アウトウッド ノズミール
第3部	三輪 圭吾 (みどり市)	ハーバート NIGHT フィーバー
第4部	千本木 裕 (桐生市)	ゴールドリンク D ホワイト チャンプ
第5部	Team Cousin (太田市)	ハーバート チャンピオン クルミーナ
第6部	成田 豊 (長野原町)	パーチャウンテン ブレークアウト マーテル
第7部	石原 玄明 (みどり市)	フロンティア AB エース セリーヌ
第8部	細井 幸夫 (伊勢崎市)	クリッパー パーンズ シェルディー
第9部	上谷川 直人 (長野原町)	レインボーヒル キングソン セレナ



未經産の部
名誉賞
Team Cousin(太田市)

経産の部
名誉賞
細井幸夫(伊勢崎市)



第8部4才以上5才未満の部で名誉賞を受賞した
クリッパー パーンズ シェルディー

業務部より

価格安定支援の各種事業の実施状況については下記のとおりとなっております。

■肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)

対象期間	単価 公表日	品種区分	交付単価 (円)	頭数 (頭)	交付金額 (千円)	契約数 (戸)	交付日
平成24年4月	6/20	肉専用	7,600	1,039	7,896	113	6/27
		交雑	91,900	1,279	117,540	122	
		乳用	108,300	520	56,316	18	
		計		2,838	181,752	253	
平成24年5月	7/17	肉専用	25,000	706	17,650	95	7/23
		交雑	89,500	1,006	90,037	110	
		乳用	84,700	570	48,279	17	
		計		2,282	155,966	222	
平成24年6月	8/16	肉専用	30,900	745	23,020	95	8/23
		交雑	114,100	1,050	119,805	113	
		乳用	76,400	539	41,179	18	
		計		2,334	184,004	226	
平成24年7月	9/18	肉専用	25,400	835	21,209	109	9/24
		交雑	115,500	1,135	131,092	125	
		乳用	75,000	499	37,425	17	
		計		2,469	189,726	251	

総計	肉専用	対象	3,325			412	
		交付	3,325		69,775	145	
	交雑	対象	4,470			470	
		交付	4,470		458,474	144	
	乳用	対象	2,128			70	
		交付	2,128		183,199	23	
	合計	対象	9,923			952	
		交付	9,923		711,448	251	

■肉用子牛生産者補給金制度

【事業の実績(平成24年9月現在)】

対象期間	品種区分	交付単価 (円)	頭数 (頭)	交付金額 (千円)	対象者 (戸)	交付日
平成24年1～3月	他肉専用	51,600	0	0	0	5/31
	乳用	26,100	441	11,510	15	
	計		441	11,510	15	
平成24年4～6月	他肉専用	72,710	0	0	0	8/31
	乳用	34,350	406	13,946	13	
	計		406	13,946	13	

■肉用牛繁殖経営支援事業

【事業の実績(平成24年9月現在)】

対象期間	品種区分	交付単価 (円)	頭数 (頭)	交付金額 (千円)	対象者 (戸)	交付日
平成24年1～3月	褐毛	13,800	0	0	0	交付なし
	他肉専用	34,500	0	0	0	
	計		0	0	0	
平成24年4～6月	褐毛	300	0	0	0	交付なし
	他肉専用	34,350	0	0	0	
	計		0	0	0	

■養豚経営安定対策事業(全国肉豚)

【事業の実績(平成24年9月現在)】

項目	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計
枝肉全国平均価格 (円/kg)	440				440
補てん金単価 (円/頭)	1,230				1,230
事業対象頭数 (頭)	157,747				157,747
補てん金交付額 (千円)	194,028				194,028
補てん金交付(予定)日	8～9月				

■肉用牛肥育経営緊急支援事業支援金に係る返還状況

【平成24年6月販売分まで】

1 返還状況

販売対象期間 (販売異動等)	請求額 (千円)①	入金額 (千円)②	請求残額 (千円)①-②	返還金残額 (千円)
支援金交付額(191名) H23.8～H24.6	1,275,350	870,900	404,450	1,946,500 1,075,600

2 請求書発行者数及び入金状況

	請求	うち全額返還	うち一部返還	うち全額未納
発行者数 (人)	191	59	114	18
請求額 (千円)	1,275,350	297,450	796,400	181,500
うち入金額 (千円)	870,900	297,450	573,450	

畜産新技術

群馬県立畜産試験場における試験研究成果及び研究報告等広く新技術としてご紹介します

高泌乳牛へのTMR飼料による飼料用米多給技術

飼料用米を用いて濃厚飼料中のトウモロコシを代替する給与技術を開発しました

目的 飼料自給率向上を目指し、国産飼料を活用する

輸入トウモロコシ

- 供給不安定
- 高値傾向



飼料用米

- 新たな国産飼料として注目
- トウモロコシと同等の成分組成

表：玄米とトウモロコシの一般成分組成

	水分	粗蛋白	粗脂肪	粗灰分	TDN
玄米	13.8	9.2	2.7	1.6	94.3
トウモロコシ	13.5	9.2	4.4	1.5	92.3

※ TDN：可消化養分総量



技術の概要

1. 濃厚飼料中のトウモロコシ(約40%)を飼料用米(玄米)で代替
2. 玄米は、製粉機で粗挽き加工して使用
3. 泌乳中後期牛(日乳量35kg程度)にTMR飼料として給与
4. 飼料摂取量、乳生産、胃液・血液性状に変化なし



濃厚飼料中のトウモロコシは飼料用米で全量代替できる

飼料用米を乳牛に給与する場合の留意点

消化率向上のため、飼料用米は粗挽き等の物理的処理を行うことが必要です



粗挽きした飼料用米(玄米)



飼料用米を用いたTMR飼料

トウモロコシを
全量代替

畜産試験場 大家畜係

